

# 事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

913

資源リサイクル事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	4	自然と共生する環境にやさしい社会の形成
施策	2	循環型社会の形成
取組方針	1	ごみ減量の推進

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		清掃費	
	目		塵芥処理事業費	
	大事業		塵芥処理事業	
	中事業		資源リサイクル事業	

事業種別	継続		関連個別計画	一般廃棄物処理基本計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	一般廃棄物課	森本 延幸 435-1352
事業実施の根拠法令			関連課	収集センター		

## 1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要		
	缶・ビン・紙・布等を資源としてリサイクルする。		循環型社会の形成を目指し、廃棄物の減量と有効利用するため、缶・ビン・紙・布等を中間処理の段階で資源としてリサイクルするための事業		
事業内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
	一般家庭から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 @ かん 750.64トン@ びん 2,459.86トン@ ペットボトル@ 1,110.86トン@ 紙・布 0.00トン@ 紙 2,386.38トン@ 布 675.05トン@ @ 小型家電等@ 248.971トン	一般家庭から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 かん 743.87トン びん 2,348.96トン ペットボトル 1,180.99トン 紙 2,282.81トン 布 723.02トン	一般家庭から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 かん 696.89トン びん 2,210.75トン ペットボトル 1,180.64トン 紙 2,225.99トン 布 731.05トン	缶・ビン・紙・布等を資源としてリサイクルするための処理をする。	

## 2 事業コスト

事業費等(千円)	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	40,619	32,154	40,640	31,215	36,912	33,460	40,180	0	0	0
伸び率(%)	△7.4%	△5.9%	0.1%	△2.9%	△9.2%	7.2%	8.9%	△100%	△100%	0%
人件費	正規職員	3,510	9,093	9,031	9,351	8,216	7,893	7,893	0	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	3,510	9,093	9,031	9,351	8,216	7,893	7,893	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	11,308	10,117	6,800	5,693	6,800	6,119	6,600	0	0	0
一般財源(税等)	29,311	22,037	33,840	25,522	30,112	27,341	33,580	0	0	0
所要人数(人)	正規職員	0.44	1.14	1.13	1.17	1.02	0.98	0.98	0.00	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	手数料 40,110千円									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
出前講座回数		回	目標値	100	120	120	100	
			実績値	115	107	109		
			達成度(%)	115.0%	89.2%	90.8%	%	%
一般廃棄物のリサイクル率		%	目標値	10.59	11.84	13.16	14.52	
			実績値	7.42	7.92	7.90		
			達成度(%)	70.1%	66.9%	60.0%	%	%

#### 4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○ 見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	平成23年7月から雑がみを紙・布として分別収集を開始し、収集資源を再生利用する取組が進んでいる。@平成28年4月からは新しい分別収集による資源の有効活用を図る。@平成30年4月から青岸ストックヤードがオープンし、市民が自己搬入するごみから資源化可能なものの選別をする@ことでごみの減量及びリサイクルを推進。また、市民の資源の自己搬入に対応。
見直し・改善内容	和歌山市一般廃棄物処理基本計画により、令和2年度目標とした対平成22年度比総ごみ量約30%減を目指し、様々な取組を行っている。@平成28年4月からは、今まで分別収集していたプラスチック製容器包装を、週2回の一般ごみとして回収し、焼却することでごみ発電(熱回収)による有効活用を行っている。@3Rの理念はリサイクルよりもリユースが重要であることから、平成28年度より紙と布を別回収し布を古着としてリユースすることに取り組んでいる。@「青岸ストックヤード」において、かん、びん等の資源搬入に対応し、今まで焼却していた青岸清掃センターに自己搬入されるごみに含まれる資源を選別・ストックするなどにより資源化と、焼却ごみの削減に取り組んでいく。資源物の国内価格の下落が起こり、より品質の高い分別の指導啓発が必要。